

戦後行田の環境衛生として蠅はいなくなつた

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の公表から、間もなく2カ月が経とうとしています。衛生について考える機会も増えたのではないのでしょうか。今回は衛生に関する行田の歴史と資料を紹介します。

在でした。家庭で蠅取り紙を使っても一向に減らなかつた、蠅取り瓶が真っ黒になるほどだった、などの話が昭和32年（1957）の行田市政日より第70号で紹介されています。

昭和24年（1949）の市制施行から間もない頃の行田は、上下水道が整備されておらず、古い水路や沼が残っていました。水は井戸から汲み、使つたらそのまま外へ流すのが普通だった時代です。生活排水が水路へ直接流れ込んでしまい、停滞した汚水は蚊や蠅の発生源となっていました。蚊や蠅は伝染病を媒介する害虫であり、当時は数も非常に多く、常に問題視される存

下水道整備などによって環境は徐々に改善されましたが、市政の力だけで成し遂げたわけではありません。昭和30年ごろから「カとハエのいない生活実践運動」を行った市内9地区では、定期清掃や金網の設置、一斉消毒などの努力を経て、蚊や蠅の数を劇的に減らすことに成功しました。こうした市民主体の運動が、衛生的なまちづくりを支えたのです。



はいちよう 蠅帳 (行田市郷土博物館蔵)

写真の資料は、食品を蠅から守る蠅帳です。夏の季節になるほど身近な道具でありながら、こうした箱型タイプはあまり見掛けなくなりまりました。冷蔵庫やラップが普及した影響もありますが、身近で発生する蠅の数が減り、昔ほど気にする必要がなくなつたためとも考えられます。先人たちの努力が蠅帳を資料にした、ともいえるかもしれません。
(郷土博物館 岡本夏美)

はじめまして



令和元年9月生まれのお子さんを募集します

- 7月1日(水)～31日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、8月3日(月)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



令和元年7月生まれのおともだち



小泉 透真ちゃん(門井町)
令和元年7月27日生まれ
父・誠さん 母・知美さん
「心優しく
たくましく育つてね」



小島 美桜莉ちゃん(大塚)
令和元年7月1日生まれ
父・篤志さん 母・愛さん
「これからもたくさんの
笑顔を見せてね♡」



江森 由依ちゃん(下須戸)
令和元年7月3日生まれ
父・稔晃さん 母・雅子さん
「元気にすくすく育つてね♡」



中村 杏渚ちゃん(白川戸)
令和元年7月9日生まれ
父・彰宏さん 母・未由希さん
「色々な経験を
一緒に積んでいこうね!」



柴崎 叶彩ちゃん(斎条)
令和元年7月22日生まれ
父・悠介さん 母・茉莉さん
「毎日笑顔をありがとう!」



飯塚 柚月ちゃん(向町)
令和元年7月20日生まれ
父・雄大さん 母・瑠美子さん
「ゆんちゃんは
家族のアイドル♡」

今月の表紙

6月1日、市内全小・中学校で通常登校が始まりました。新型コロナウイルス感染症の拡大防止により、長らく臨時休業が続きましたが、十分に対策をし、授業を再開。忍中学校では、登校時、校門の前で教職員が生徒を迎えると、子供たちは少し恥ずかしそうにあいさつをしつつ、久しぶりの学校生活に胸躍らせていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ
市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています